

# 日刊 動労千葉

86. 5. 22

No. 2246

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)  
(鉄電) 二九三五六・(公衆) 〇四七二(22) 七一〇七

## 返上せよ

「組合綱領」すらなげすてて、「自民党や鉄労の手下に  
なれ」と唱える裏切集団に

### 鉄輪旗は必要ない

動労革マル・松崎は、わが動労千葉を相手どり、「組合名称・組合旗・組合歌の使用差し止め」を求める訴えを東京地裁に出した。理由は、われわれ動労千葉が国鉄「分割・民営化」に反対し、ストライキや順法闘争などで闘つたことで、動労革マルが迷惑をこうむつたので、「組合名・旗・歌を使わないでくれ」というものだ。動労を同盟・鉄労をしおぐ御用組合に変質せしめた張本人が松崎自身である。自民党機関紙・自由新報において「動労の綱領を変える」と宣言、いまや組合旗＝鉄輪旗を日の丸に染めかえようとしている。松崎は中曾根・三塚・杉浦と手を組んで国労を、総評を解体せんとしている。これを許すなら十万人の首が切られ、労働運動は変質し、労働組合は日の丸を掲げる産業報国会と化してしまう。

「國労には未来がない」と松崎

「動労は、いま、  
はつきりと方向転換した」

○社会主義政権めざす今の動労の綱領はなじまぬ、

次期大会で変える。

○自民党の三塚・橋本氏とつきあつて自身の価値観が変わった、われわれは変節した。

○国鉄の組合は統一すべきで、鉄労が主導権をとるべきだ。

○国労については未来はないし、そんなものに未来があるとすれば日本の未来はなくなる。

○スジの通らない、わけのわからぬ組合(国労)を助けないでほしい、当局がもつとしつかりするべきだ。

○民営的手法を発揮できるのは分割しかない。

○動労は、いま、  
はつきりと方向転換した

これまで松崎は「冬の時代」論をペテン的にふりまき、屈服と裏切りを正当化してきた。「いまは情勢が厳しい、だから闘つてはダメ、いずれは闘う」となどと労働者をあざむいてきた。ところが松崎は、もはや「冬の時代」＝屈服と裏切りどころではない。変節＝転換するというのだ。

そして、松崎がいまやっていることは「国家の危機、資本主義の危機の中では支配者に屈服し、その手先となつて危機のりきりのために働くことが労働者の利益である」とし、それを実践しているのだ。

組合旗を日の丸にかかる松崎

中曾根は国労を解体し、総評を解体するためには少数御用組合・鉄労の協力だけでは分割・民営化は不可能、総評に籍を置く動労革マルを取り込み、最先兵とすることではじめて可能になる、と考えてきた。

裏切り者・松崎は当然にもそこに取り込まれ、自民党にペコペコし、国労つぶし、動労千葉つぶしにのりだしたのだ。自民党の三塚や橋本は臨調・行革攻撃、国鉄「分割・民営化」攻撃の旗頭、いわば国鉄労働者の首切り＝死刑執行人ではないか。

ここまでくればはつきりしている。鉄輪旗を日本にかえようとしている動労革マル・松崎なんぞに動労の戦闘性を守り、鉄輪旗を高々と掲げぬいている動労千葉へのケチつけなど絶対に許されないものではない。

民営化阻止！ 王里塚二期着工粉碎！

国鉄「分割・

動労「階級闘争」から転向

民営化阻止！ 王里塚二期着工粉碎！